

谷津田の四季ののらしごと ~ 春編

大友 英寿（千葉市稲毛区在住）

今回から三ヶ月に一度、谷津田における四季の野良仕事をご紹介させていただくことになりました。今回は三月から五月までの田植えまでの準備など、春の主な作業をご紹介します。

水路の整備

下大和田の谷津田の一部では休耕田が多く、稲作を続けている六カ所の田んぼのそれぞれの両隣はすべて休耕田になってしまっています。Y P Pの田んぼを含む上流側の三カ所の田んぼでは斜面林下の土水路またはU字溝から取水していますが、下流側の三カ所では谷津の中央を流れる小川から取水しています。しかし休耕田が増えるにつれ、小川の手入れをする人手も減り、小川の中では草が生えたり、土砂が堆積してしまったりしています。年々、水位が上昇しているようで、どの田んぼも水はけが徐々に悪くなってきているようです。

そこで冬から春のはじめにかけて、小川の中の草をかったり泥をさらったりします。川の中の草はヨシなどのかたい草が多いので、鎌より平鍬で根本からざくざく刈った方が速いです。川底に残った根は鎌やシャベルで少しずつ切りながら取りますが、場所によってはびっしりあって苦労します。

草を刈っていると、たまに枯れた長い木の枝などが落ち葉をせきとめて小さなダムを作っているのを見つけます。そこでは水の流れが悪くなっていて、魚なども通りにくくなっています。枝などをとると水がよく流れるようになり、なんとなく嬉しい気分になります。

畦（くろ）の整備

水田にとって畦はとても大事な部分です。水田は水をしっかりためることで、水を日光にあたためてもらい、稲の成長を助けます。

その畦ですが、よく穴をあけられてしまいます。犯人はモグラやザリガニたちです。モグラ達が掘る穴は水道管のようにしっかりしていて、たくさん水が流れてもほとんど壊れることがないくらい丈夫です。「もしできることなら、モグラさん達やザリガニさん達と仲良くなって、水を流したいところにちょうどよい穴を掘ってもらいたいな～」と思うくらいです。でも私はまだ仲良くなれていないので（お会いするたびにご挨拶してはいるのですが...）穴をせつせとふさぐしかありません。

今まで見てきた限りでは、水漏れが起きる穴はたいていあっすぐではなく、二回以上大きく曲がっているものがほとんどです。長さは短いものでメートル、長いものでは三メートル以上のものもありました。おそらく畦の内側にザリガニ達が掘る数十センチの穴と、モグラ達が掘る長いトンネルがつながることで水漏れがおきるのではないかと思います。ですから、穴の入口や出口のまわりだけふさいでもあまり効果がなく、またすぐに水漏れが起きてしまいます。そこで水漏れをみつけた時は出口からさかのぼって、いったん全部を掘り返し、それをよくねった泥で埋め戻すようにしています。

稲刈りまでなるべく水もれが起きないように畦ぬりもします。四月中旬を過ぎるとシュレーゲルアオガエルが畦の水際に泡状の卵を産むので、畦ぬりをしようとするときたくさん卵を掘りかえしてしまいます。カエル達の迷惑にならないよう、なるべく早めに済ませるようにしています。

田起こし

前の年に稲を刈った時に残った株をひっくり返します。田起こしも、遅くなるとたくさんのオタマジャクシに迷惑をかけてしまいます。

冬に田んぼに水をためておくとアカガエルが卵を産んで、三月から四月にかけて暖かくなってくるとオタマジャクシになります。オタマジャクシがのんびり過ごしているところを鍬で耕してしまうと、小さなかれらは時に逃げ場を失って死んでしまいます。ですから、なるべく卵のうちに安全な場所に移動させてもらっています。

やむをえずオタマジャクシでいっぱいになってしまった田んぼを耕すときは、田んぼに水を少したしてオタマジャクシが避難しやすいようにしながら耕すか、バケツなどにすくって別の場所に移してから耕しています。

苗作り

苗作りはとても大切な作業です。どんな生き物でもそうですが、小さい時ほど弱く、ほんの少しのこと



畦にあけられた穴を掘り起こしたところ

で弱ったり死んだりしてしまいます。

まず種をまく前の準備をします。くわしいことは省きますが、しっかりしたよい種を選ぶために塩水につけて浮いたものを取り除く塩水選（えんすいせん）と、病気を防ぐための温湯消毒（おんとうしょうどく）のあと、水に十日くらいつけて、高温多湿の状態で一晩置くことで発芽時期をそろえます。それから種まきとなります。

どの作業も必ず必要というわけではなく、人間にとって都合をよくするためのものです。人間でも病気になるし、背が伸びるのが早い子もいれば遅い子もいるし、駆け足が速い子もいれば絵を描くのがうまい子がいるように、稲にもいろんな子がいます。ただ、稲の背の高さや実のつき方がまちまちだったり、病気になってしまったりすると困る場合は、種まきの前にこれらの作業を行うこともあるということです。

ビニールハウスで作る苗は苗箱で、田んぼで作る苗は泥で作った苗代で作っています。どちらも種まきの後は鳥に食べられないようによく注意しています。数日すると針のような芽が出てきます。大きくなるにつれ、暑さや寒さに少しずつ強くなるようです。ぐんぐん大きくなる姿からはたくさんの元気をもらえます。元気に育ちますようにと大切に見守ります。

その他

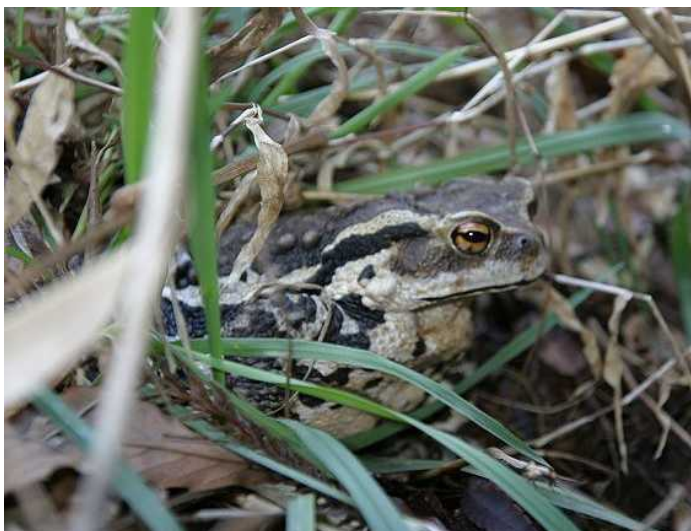
不耕起の自然農法田んぼでは麦を育てているのですが、こちらは暖かくなるとぐんと背が伸び始めます。五月くらいまでに稲の種もみを小さな泥団子に入れて麦が育っている田んぼに投げ入れておくと、ちょうど六月の麦刈りのころに芽が出ます。

冬のあいだ、枯れた草の茶色ばかりが目立った谷津田も、暖かくなるにつれどんどん緑に変わってきています。虫も少しずつ動き始め、花もたくさん咲いて、冬にはなかった香りがたくさんします。たくさんの命に元気をもらいながらの野良仕事はとても楽しく、心地よいです。

谷津田いきもの図鑑 No.17

アズマヒキガエル

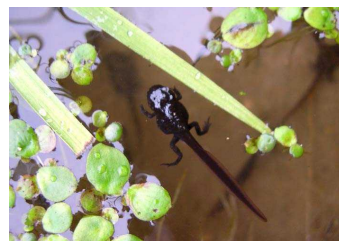
一般にガマガエルと呼ばれている大きなカエルです。体中にいぼがあってちょっと不気味な風体ですが、眠たげな顔つきはなかなか愛嬌があります。下大和田や小山では毎年3月の下旬に田んぼで産卵が行われます。産卵は夜が中心なのでなかなか見ることができませんが、巨体のヒキガエルがたくさん集まってメスをめぐって競い合う姿は昔から「蛙合戦（かわずがっせん）」と呼ばれてよく知られています。この繁殖の時だけ小さな声でクウクウクウと鳴きます。産み付けられた卵は直径が1センチ前後のひも状で長いものでは5メートルを超えます。その中に入っている卵の数は数千個になるとか。孵化したオタマジャクシは全身が真っ黒なのが特徴で、親の大きさに比べると小さくてせいぜい2センチくらいにしかありません。5月には手足が生えそろって上陸しますがその時も1センチ程度で、田んぼで生まれるカエルの中では一番のチビ助です。田んぼから上がるとすぐに周辺の林に移動してしまうので、以後、谷津田で姿を見ることはありません。斜面林や台地の上の畑、民家の庭先などに住み着いてミミズや昆虫を食べて10センチを超える巨体に生育するようです。目の後ろにある耳腺（じせん）に毒を持っていて、ヘビなどに噛まれると耳腺が圧迫されて毒が分泌されることによって身を守るのだそうです。触っても平気ですが、後で手を洗うことをお忘れなく。



春先目覚めたばかりのヒキガエル（小山 3月）



ひも状の卵塊（小山 3月）



上陸間近の子ガエル（小山 5月）

（高山邦明）



里山たんけんレポート

第99回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008年4月6日(日) 晴れ

斜面林の雑木林の梢も芽吹き始めうっすらと様々な色に彩られ、その中でコブシの白い花が満開で引き立っていました。道端は春の花が満開で花を踏まないでは歩けないほどでした。特段珍しい花々ではありませんが、花壇の植栽の花々とは異なって個々の主張を持って生きているように感じられます。モンシロチョウ、キチョウ、ルリシジミ、キタテハが舞っていました。冬を乗り切った枯れ枝色をしたホソミオツネトンボも林縁で見られました。林縁にミツバチの巣箱が数個置かれ、そのひとつにはニホンミツバチが出入りしていました。下流の沼から南側の川沿いに戻りました。谷津の中の若いオオシマザクラは5分咲き、葉を食べてみて、桜餅の香りを楽しみました。斜面林の山桜はちらほら咲き始め、クロモジは満開でした。いつものルリビタキの居場所にはまだ今日もいました。冬鳥は少なくなりましたが、ツグミもアオジも留まっているものがいました。川からはオシドリも飛び立ち、姿は見られませんでした。アリスイの大きな声が谷津に響いていました。入れ替わる夏鳥のツバメもやって来ました。田んぼはアズマヒキガエルがオタマジャクシになり、ニホンアカガエルのオタマジャクシはぐんと大きくなりました。干上がったところには水掻きのあるカモと大型のサギの足跡が残っていました。

(参加者 大人6名; 報告: 網代春男)

第83回 下大和田 YPP「田んぼの手入れ、谷津のゴミ拾い」

2008年4月20日(日) くもり

朝から小雨が降る天気でしたが、活動がはじまる頃にやんでくれましたのはさすが YPP です。まずは谷津のゴミ拾いをしました。YPP 田んぼに近い耕作放棄した田んぼを埋め立てた場所は「ゴミ捨て禁止」の市の看板が立っているにもかかわらず、以前から大型ゴミの投棄が相次いでいる場所です。枯れ草を取り除いてみると出るわ、出るわ、タイヤ、瓦、照明、一斗缶、自転車、ガラス、ひいては風呂桶からスナックのドアまで！道路の隅に置いたのですがあつという間にゴミの山になってしまいました。人目が届きにくくなった放棄谷津の困った現状です。1時間ほどでゴミ拾いを終える予定が午前中一杯たっぷりかかってしまいました。昼食後は古代米田んぼに畦を作る作業をしました。泥深い田んぼで稲刈りなどの作業が大変なので、田んぼの中に入れる畦を作ることにしました。ドロドロなので去年の稲株を集めて取りあえず田んぼを2分する畦を一本作りました。乾燥するのを待ってまた作業が必要になりそうです。(ゴミは市に回収していただきました)



ゴミの山をバックに記念撮影!

(参加者 大人10名、中学生1名 報告: 高山邦明)

第32回 小山町 YPP「田んぼづくり」

2008年4月12日(土) 晴れ

さわやかな晴天に恵まれて田んぼづくりをしました。2月にはアシ原の開墾からはじめた作業もいよいよ終盤。今回はまだ残っているアシの根を取ったり、クロ塗りをしたり、水位が合うように泥の量を調整したり、仕上げに向けた作業をしました。小中学生の女の子を中心に裸足で田んぼに入り、キャーキャー歓声を挙げながらクワやスコップを使って作業してくれました。田んぼには新しく3個のアカガエルの卵塊があり、また畦にシュレーゲルアオガエルの卵塊が産み付けられているのも見つけました。新しいピオトープとしてさっそく生きものたちに気に入って使ってもらえているのはうれしいですね。クロ塗りがほぼ終わってとても立派な田んぼになりました。シュレーゲルの鳴き声が間近で聞こえたり、上空からヒバリのさえずり、谷津に響くウグイスやヤマガラの声に囲まれて気持ちのよい作業でした。

(参加者 大人5名、小中学生6名; 報告: 高山邦明)



田んぼで大活躍してくれた小中学生たち

谷津田・季節のたより

小山町

- 4月3日 フクロウの鳴き声を聞く(越川)
4月5日 ケキツネノボタンやキランソウが咲き始める。モズがツバメなどの鳴きまねをしていた(高山)。
4月13日 比較的新しいアカガエルの卵塊が学校田んぼにあった。フクロウの声を聞く(高山)。
4月25日 りんどう広場でシオヤトンボが飛んでいた(齊藤)。
4月27日 斜面林のあちこちでウワミズザクラが満開(高山)。
4月28日 つがいらしきカモがYPP田んぼの上を低空で水辺の郷方面に飛んでいった(齊藤)。
4月28日 谷津へ下りる坂にウラシマソウが咲いていた(松下)。大麦の穂が出ているのを確認(齊藤・金谷)。
4月29日 上空を2羽のサシバが飛翔(松下)



ウワミズザクラ(小山にて)

下大和田

- 4月4日 苗代にコシヒカリをまく。アズマヒキガエルが孵化(石橋)。
4月11日 カワセミがにぎやかに鳴き交わっていた(網代)。
4月17日 林でフデリンドウやニオイタチツボスミレが咲く。ツマキチョウを見かける(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任をお願いします。

第85回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！コシヒカリの田植え」

第86回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！古代米の田植え」

5月はコシヒカリ、そして6月は古代米の田植えをします。いつものようにヒモを張ってみんなで一斉に植えます。新緑の谷津を吹き渡る風が心地よい季節、みんなでわいわいにぎやかに作業を楽しみましょう！

日時: 第85回 2008年5月17日(土) 10:00~14:00

第86回 2008年6月7日(土) 10:00~14:00 *いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください)。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴(できるだけ長めの方がいいです) 軍手、弁当、飲み物、お椀、小皿、はし、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第101回 下大和田6月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの赤ちゃんが畦を跳ね回っている頃です。初夏のたたずまいになった谷津を散策します。午前中はみんなで谷津を散策し、午後は田んぼの作業などをします。

日時: 2008年6月1日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場向かいラーメンショップ脇に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 桜の季節が終わり、いよいよ瑞々しい新緑が気持ちよい季節です。ところで、この「緑」は昔からある色の名前ではなく、一昔前までは緑も青も一括して青と呼ばれていたことをご存じですか? 信号の緑は青信号、新緑が大好きなのは青虫、鳥好きなら一度は見たい鳩はアオバトと、緑色なのにみな青です。以前滞在したことがあるベトナムでも同様でしかも現在でもグリーンもブルーも青なので困った経験があります。中国語でもそうだとか。新緑というより、青葉の季節と呼んだ方が日本らしいのでしょうか。次はホトトギスの初鳴きが楽しみなこの頃です(高山邦明)